

令和6年度 椎葉村立大河内小学校 学校関係者評価 教育目標 「思いやりの心をもち、ふるさとを大切にする、かしこくたくましい大河内っ子の育成」
※ 評価について 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

項目	目標達成の手段	自己評価			結果の考察・分析及び改善策等	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
		評価	総合評価				
つながる力の育成	①発表する場の設定、充実	児童 保護者 教職員	3.8 3.0 3.7	3. 5	○ 全体の傾向として、人前で自分の考えを発表することが苦手であったが、日々の授業や行事等で実践を積み、はきはきと発表できる場面が多く見られるようになった。 ○ 心豊かな児童を育成するために、各学級において特別の教科道徳の授業を実践し、オンラインによる松尾小との合同授業（ユニット学習）も行った。また、様々な体験活動を通して、公共心や規範意識、思いやりの心などを育てることができた。 ○ 教職員、特に保護者の評価が高くなかった。家庭での読書推進を図るために、よい本と意図的に出会い、静かな環境で本と向き合える機会を作りたい。 ○ 九州大学宮崎演習林施設を活用しての宿泊学習や修学旅行、集団宿泊学習が実施できた。また、集合学習も計画通り実施することができ、村内の学校との交流も図れた。釣りや稻作の栽培活動等の豊かな体験活動も行うことができた。	3. 6	
	②道徳教育や児童指導、人権教育の充実	児童 保護者 教職員	4.0 3.7 3.6				
	③読書活動の推進	児童 保護者 教職員	3.4 2.6 3.0				
	④学校間連携や豊かな体験活動の実践	児童 保護者 教職員	3.9 3.5 3.9				
学び力の育成	①「分かった・できた」と実感できる授業の実践	児童 保護者 教職員	3.8 3.2 3.7	3. 4	○ 宮崎県が示している「ひなたの学び」を意識した授業を実践している。今後も個別最適化の学びと協働的な学びを運動させながら、学力の向上に努めていく。ユニット学習は道徳科で取り組んだ。椎葉村学は地域の人材を活用し、積極的に取り組むことができた。	3. 8	
	②学習規律の徹底と学習習慣の定着	児童 保護者 教職員	3.7 3.2 3.9		○ 授業前後に立腰を意識した姿勢が定着している。話の聞き方や発表の仕方など学習のきまりも全学年で共通実践でき、基本的な学習規律が身に付いている。家庭での学習については、平日は放課後に済ませており、今後は家庭で最終の見届けをお願いしていく必要がある。		
	③複式解消や個別指導の充実	児童 保護者 教職員	3.6 3.7 3.9		○ 算数や理科で複式指導の解消を行い、基礎学力の定着を図った。また、教育アプリ「キュビナ」を用いて、個別最適化の指導を行うことができた。JAGAネットについてはキュビナの活用だけで時間がかかるので、積極的な活用には至っていない。		
	④特別支援教育の充実	児童 保護者 教職員	3.7 3.4 3.6		○ 毎月の校内委員会を通して、職員の特別支援教育に関する理解や指導力の向上を図ることができた。また、オンラインによる特別支援教育研修（エリア研）は全員で参加し、特別支援教育に関する学びを積極的に行なった。		
たくましい心と体の育成	①体力向上プランの完全実施	児童 保護者 教職員	4.0 3.3 3.4	3. 6	○ 体力向上プランの完全実施に向けて、導入時のサーキットトレーニングや休み時間等に活用できる遊具を使った運動の紹介などを行った。親子体力テストも実施し、意識の向上を図った。（令和6年度県体力つくり優良校表彰を受けた。）	3. 6	
	②健康教育の充実	児童 保護者 教職員	4.0 3.5 3.9		○ 防災をテーマに学校保健委員会を2回開催した。県の防災士に講話をしていただき、親子で心肺蘇生法の練習を行ったりした。事後のアンケートからも保護者の防災に対する意識の高まりを感じた。		
	③食に関する指導の充実	児童 保護者 教職員	4.0 3.3 4.0		○ 児童自ら食事のマナーや偏食等に気を付けた食事ができるようになっている。「弁当の日」の取組も計画的に実施することができた。食物アレルギーについては、全職員で研修を行い、共通理解を図りながら対応することができ、事故等もなかった。		
	④危険予知能力や危険回避能力の育成	児童 保護者 教職員	4.0 3.0 3.7		○ 避難訓練や土砂災害防止教室等、地域の方にも協力いただき、計画的に実施できた。これらの活動を通して、災害における「自分の命は自分で守る」という危険予知と危険回避能力を身に付けることの大切さについて、意識付けをすることができた。		
家庭・地域との連携・協働	①地域を生かした学習の充実	児童 保護者 教職員	3.9 4.0 4.0	4. 0	○ 村教育委員会が推進する「椎葉村学」を軸として、大河内地区の方々の協力を得ながら様々な学習を行うことができた。また、夏には教職員による大河内視察研修を行い、地域素材の教材化について実際に見学したり、体験したりすることで深く知ることができた。	3. 6	
	②学校と家庭・地域の一体活動の充実	児童 保護者 教職員	4.0 4.0 4.0		○ 昨年度に続き、地区と合同の運動会や長距離走大会等を実施することができた。臼太鼓や神楽の伝承活動も、地域の方々にご協力をいただき、実施することができた。学校図書館の解放については地域の方々への周知や具体的な利用方法について課題が残った。		
	③地域の学校支援活動の充実	児童 保護者 教職員	3.8 4.0 3.9		○ 運動会を始め、米作りやクリスマスツリー作り、読み聞かせなど、様々な行事で地域の方から温かいご支援を頂いた。		
	④地域から学校運営への参画促進	児童 保護者 教職員	4.0 4.0 3.9		○ 学校運営協議会を計画的に実施し、学校運営に関しても地域の方の意見を取り入れながら行うことができた。次年度も、学校運営協議会を核として地域の方々の参画意識を高めながら、学校運営を進めていきたい。		

【その他のご意見・ご感想】

○ 大河内小のためにいつもありがとうございます。現状には何も意見はありませんが、児童数の減少は本当に大変だと思います。今、教育委員会が取り組んでいる家族移住型山村留学、住居、就労まで世話をする条件付の募集が始まります。教育委員会と公民館、小学校が連携して地区の空き家の確認、持ち主の確認、移住者の仕事の世話、地区にどんな仕事があるかの確認など、少しでも準備していくのも今後を考えると大切だと思います。このような状況の中、先生方にはさらに余計な苦労をおかけするかと思いますが、他の地区より先行して準備をしていくことが優先して優遇してもらえることにつながると思います。どうぞよろしくお願ひします。

